

現場見学会 次第

主 催 大阪府建設業懇話会
協 力 株式会社NIPPO
日 時 平成26年11月28日(金)
13:00～14:45
場 所 大阪府立中河内・南河内地域支援学校(仮称) 増築その他改修工事

1. 建設現場概要説明等

2. 現場見学

3. 質疑応答

見学時には引率者が付きますので、指示に従って行動をお願いします。

【注意点】

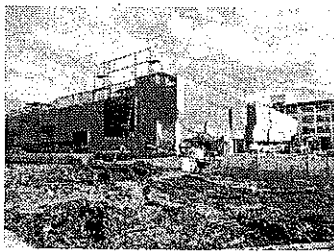
- ① 安全のため、見学エリア以外には立ち入らないようお願いします
- ② 現場作業中の機械に注意。(引率者の指示に従ってください)
- ③ 工事機械、工具等には触れないようお願いします。
- ④ 足元が悪いので注意願います。

大阪府建設業懇話会

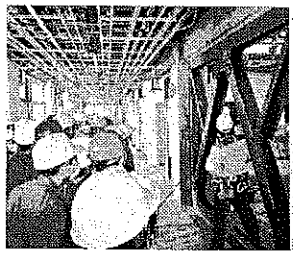
支援学校現場で見学会

大阪府と大阪建設業協会、大阪府建団連、大阪電業協会、大阪空気調和衛生工業協会、大阪府中小建設業協会が構成する大阪府建設業懇話会(委員長・山下久佳大阪府住宅まちづくり部技監)は11月28日、大阪府羽曳野市で府が進めている「大

阪府立中河内・南河内地域支援学校(仮称)増築その他工事」(施工員NIPPON)の現場を見学会を開いた。堺市立堺高等学校建築インテリア創造科の2年生約40人が参加した。同工事は、RC造2階建ての小学生用校舎増築と既存校舎(RC造4階建て)・体育館(RC一部S造2階建て)・プールの耐震改修・大規模改造を行う。総延べ1万8518平方メートル。工事場所は羽曳野市西浦2丁目。工期15年2月20日。



現在、増築棟ではコンクリート躯体とサッシ・断熱材の取り付けを終え、天井・壁の軽量鉄骨下地取り付けを行っているほか、既存体育館で内部の壁新設や外壁取り付け、間仕切り・設備工事、既存校舎で鉄骨ブレース・柱増し打ちによる耐震改修などを進めている。見学会では冒頭、山下委員長が「今日はさまざまな職種の人たちが力を合わせて一つの建築物を造る過程を見てもらえると思う。皆さんも来年は



鉄骨ブレースを見学する生徒ら

3年生になるが、卒業後の進路として建設業界を選んでほしい。安全に気を付けて見学し、将来の参考にしてもらえれば幸いです」とあいさつ。

このあと、生徒らは同工事作業所の富本敏夫所長から工事の概要や施工手順などについて説明を受けたほか、現場では増築棟、既設体育館、既設校舎でそれぞれ進められている作業の状況を見学。長細い校舎における耐震補強の考え方やバリアフリー化への配慮など、同工事の特徴について理解を深めた。

見学会には、NIPPON入社5年目の阪本圭規さんが施工管理の内容や建設業界を志望した理由、建設業の魅力を紹介。質疑応答では生徒の質問に対して、一つ一つ丁寧に回答した。

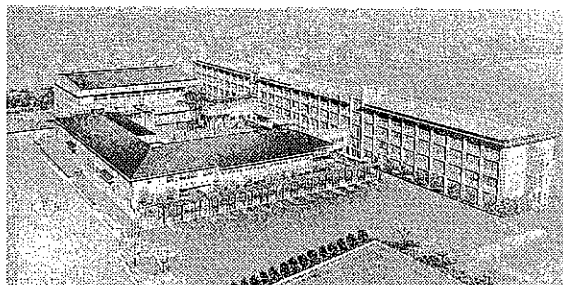
若年者入職へ魅力アピール

大阪府建設業懇話会

生徒に説明する富本所長(右)



大阪府と大阪建設業協会など府内の建設業団体で構成する大阪府建設業懇話会(委員長・山下久佳大阪府住宅まちづくり部技監)は11月28日、羽曳野市にある「府立中河内・南河内地域支援学校(仮称)」の現場見学会を開いた。建設業への若年者入職促進を目的に行ったもので、市立堺高校(堺市堺区)建築インテリア創造科の生徒と教諭が大阪府



中河内・南河内地域支援学校のイメージパース

発注の同現場を訪問。工事の進め方や現場作業の様子を学んだ。

生徒らは現場作業所で概要説明を受けた後、施工を担当するNIPPPO・富本敏夫作業所長の案内で現場に入った。

2011年3月に廃校となつた旧府立西浦高(羽曳野市西浦2)の敷地約3万1000平方メートルを活用、増築と改修

により特別支援学校として再整備する。建物は増築校舎がRC造2階建て、改修校舎がRC造4階建て、体育館(改修)がRC一部S造2階建てなどで、総延べ床面積は1万8518平方メートル。設計は浦辺設計・新日本設備計画設計JV、工事監理は中尾建築事務所が担当している。2013年12月に着工し、15年2月20日までの完成を目指している。

見学のなかで富本所長は「建設業は、若い人たちの力を必要としている。ぜひ希望をもってこの業界に入ってきてほしい」と生徒に向けてアピールした。

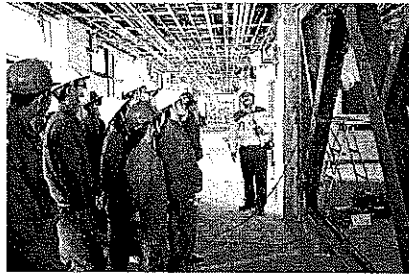
事務所に戻ると、NIPPPOの若手社員・阪本圭規さんが現場で働く魅力について語った。

阪本さんは「人との出会いがあり、達成感とやりがいを感じられる」と述べ、仕事の面白さを訴えた。

中河内・南河内支援学校増築で現場見学

堺市立堺高校年生39名が参加

府会 建設懇話会
大阪建設



大阪府、大阪建設業協会、大阪府建団連、大阪電業協会、大阪空気調和衛生

工業協会、大阪府中小建設業協会などで構成する大阪府建設業懇話会は28日、堺市立堺高校の生徒を

対象に羽曳野市の府立中河内・南河内地域支援学校(仮称)増築工事で現場見学会を開催、同校のインテリア創造科2年生ら39名と教員が参加した。
同工事の規模は敷地面積3万1315・09平方尺、建築面積77

07・37平方尺、増築校舎RC造2階建、既存校舎改修が校舎棟RC造4階建、体育館棟RC造一部S造地上2階建、プール棟RC造地上1階建て計延1万8518・02平方尺。工期は13年12月17日～15年2月20日。設計は浦辺設計・新日本設備計画設計JV、監理は中尾建築事務所、施工をNIPPONが担当。建設地は羽曳野市西浦2。現在、

躯体工事を終了、仕上工事が最盛期を迎えている。全体の進捗率は55%。冒頭、挨拶に立った同懇話会委員長山下久佳大阪府住宅まちづくり部技監が「今日は様々な職種の仕事や建設工事の過程を見ていただける貴重な機会。将来の参考となるようしっかりと見学し、ぜひ建設業に入ってほしい」と述べた。
富本敏夫所長から工事概要について説明があったあと、室内の壁や天井を軽量鉄骨下地にて施工している増築校舎棟、躯体壁や内装材を撤去して

新たに壁を作っている既存体育館棟、既存校舎の鉄骨ブレースによる耐震改修の様子などを見て回った。写真。
また入社5年目の阪本圭規さんからも「つくりが好きて、形に残る仕事に魅力を感じ建設業を選んだ。多くの人と触れ合えるのも魅力。将来の夢はランドマークとなる建

物をつくること」など、建築の仕事の魅力や職場体験談も披露され、生徒たちは熱心に耳を傾けていた。また生徒たちからは「作業中に注意していることは」「給料はどれくらいか」「仕事で苦労することは」「など次々と質問が投げかけられ、阪本さんは「健康管理に一番気を遣っている」と答えていた。

大阪府建設業懇話会 堺高校の約40 人が現場見学

大阪建設業協会など建設業5団体と大阪府で組織する大阪府建設業懇話会は11月28日、羽曳野市内で行われている府立中河内・南河内地域支援学校(仮称)の増築現場(施工NIPPPO)で、高校生の現場見学会を実施した。参加者は堺市立堺高校建築インテリア創



改修中の校舎を見学する生徒ら

造科で学ぶ2年生39人。富本敏夫作業所長から工事概要などの説明を受けた上で、現場を見学。

軽量鉄骨の組み上がった増築校舎棟から順に、既存の体育館・校舎の改修、耐震補強などの様子を見て回った。見学後、集会所に移動してNIPPPOの若手社員から建築の仕事の魅力聞いた。

質疑応答では、生徒らが建設業界に入った理由や休日の過ごし方などを積極的に質問。若手社員は「温泉をめぐりリフレッシュしている」などと返答した。

同支援学校は、再編統合で閉校となった旧西浦

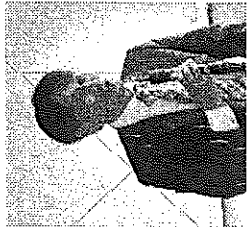
高校を利用して開校するため、既存施設の改修と新校舎(増築棟)の建設を進めている。施設の総延べ床面積は1万8518平方メートル。工期は2013年12月17日～15年2月20日。

当日は府住宅まちづくり部の山下久佳技監をはじめ、府の職員も生徒らに同行し見学。冒頭、山下技監は「たぐさんの人が携わって造られていることを肌で実感し、今後の勉強や就職活動に生かしてほしい」と語った。

若手社員が体験談で建設の魅力などをアピール

大阪府建設業懇話会も堺高校の生徒招き

大阪府、一般社団法人大阪建設業協会らで構成する大阪府建設業懇話会は十一月二十八日、羽曳野市西浦で建設が進む「大阪府立中河内・南河内地域支援学校（仮称）増築その他工事」（施工：NIPPPO）の現場に



主催者を代表して挨拶する井上接監

堺市立興高等学校建築デザイン科創始科二年生三十九人を招き、見学会を行った。

建設現場の実際の雰囲気を感じてもらおうと、若年建設従事者の入職を促すことを目的に毎年行われている。主催者を代表して山下久佳大阪府住

まいまづくり部接監が挨拶に立ち、「一つの建物を建てるのに、様々な専門の技術を持った人達が協力しあって仕事を進めていく。本日、見聞きした事を今後の勉強に役立てほしいと呼びかけた。



まらづくり部接監が挨拶に立ち、「一つの建物を建てるのに、様々な専門の技術を持った人達が協力しあって仕事を進めていく。本日、見聞きした事を今後の勉強に役立てほしいと呼びかけた。続いて施工者を代表して高本敏夫作業所長が施工手順説明等を行った後、仕上げ作業が進む現場に移動し、増築校舎棟一階部分の室内の壁や天井部分の施工を進めてい

る際や既存校舎で行われている耐震鉄骨ブレースや耐震コンクリート打設などの耐震改修の様子を見て回った。

見学会後、若手社員による職場体験談として入社五年目の社員が仕事を選んだ理由や仕事の魅力を説明。質疑応答では「現場仕事をやる上で注意している事は」「仕事で大変な事

などの質問が寄せられ、自身の経験を踏まえながら丁寧に答えた。

施工 NIPPPO



仕上げ工事が進む「大阪府立中河内・南河内地域支援学校（仮称）増築その他改修工事」

訂正 2日付1面、大阪府建設業懇話会見学会の写真は山下久佳大阪府住まいまづくり部接監の誤りでした。お詫びして訂正致します。

現場を後にした生徒らは見たり、聞いたりした実体験を授業に生かそうと、深く心に留めたようであり、意義のある見学会になったようだった。

同事業は、平成二十三年三月末に開校した旧府立西浦高等学校の敷地・校舎等を活用し、児童生徒数の増加に対応した支援学校の施設を整備するもの。

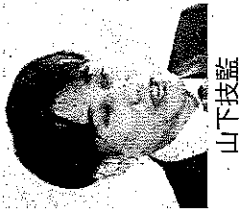
校舎増築RC造二階、既存校舎等（校舎RC造四階、体育館RC一部S造二階、プールRC造平屋）の改修工事で延べ一八、五二八平方メートルの増築を進め、プールの使用が可能となるようにプール内にスロープを設置する。現在、躯体建物が終わり、内装仕上げが中心。進捗率は約五五％。二十七年二月二十日の竣工を目指す。

府立中河内・南河内地域 支援学校(係)増築その他工事

市立堺高校の39人が参加



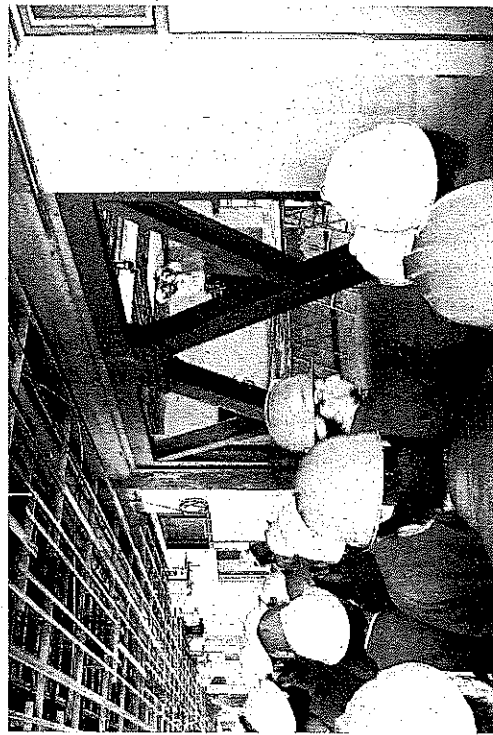
富本所長



山下技監

施工=NIPPPO関西支店

今回の現場は、大阪府見学会について、次世代が発注者となり、旧府立の建築専門家育成と人材高校の既存校舎改造と耐震確保のため、「実際の現場を肌で感じてもらう」ことを目指している。NIPPPO関西支店が施工を担当している。見学会では、初めに主催者を代表して、大阪府住宅まちづくり部の山下技監が挨拶。山下技監は

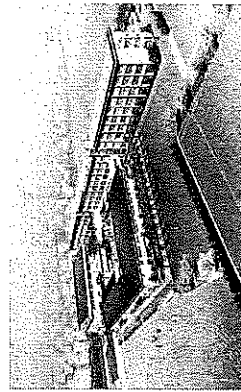


耐震鉄骨ブレースなどを見学する学生たち

大阪府建設業懇話会の現場見学会

大阪府建設業懇話会の主催による現場見学会が二十八日、大阪府河内・南河内地域支援学校(仮称)増築その他工事作業所で実施された。若年者に対する人材促進活動の一環として、府内の建築系の高等学校の生徒を対象に毎年行われているもので、今回は堺市立堺高等学校の建築インテリア創造科の二年生三五九人が参加した。

完成予想図



待を寄せた。

次いで、富本敏夫作業所長が工事概要について説明を行った。この工事は、支援学校として活用するため、新校舎増築とともに既存校舎のバリアフリー化と耐震補強、車イスでも使用できるスロープ付きトイレ等の改造工事を行っている。工事について富本所長は「現場では各種工程が順次行われており、一日当たり約一〇〇人の作業員が従事している」と説明を行った。

工事は、RC造四階建ての増築校舎、RC造四階建ての既存校舎とRC造一部S造二階建ての既存体育館、既存アールの改造と耐震改修を行うもの。校舎増築工事では基礎工事にハイブリッド工法、プレボリング根固め工法を採用。既に

は内装工事が行われている。

また既存建物では、躯体壁や内装材を撤去し新たに壁を新設。外壁はセメント成型板や軽量鉄骨下地による間仕切壁を構築。耐震改修工事では、耐震鉄骨ブレースや既存柱に対する耐震コンクリート打設による補強工事が実施されている。

これら説明に引き続き、富本所長の案内により、増築校舎と既存の体育館と校舎の作業現場を巡回。増築校舎では、内装作業の様子と内装前と内装後の違い等を、耐震工事が行われている既存校舎では、一階に設置された耐震鉄骨ブレースと補強された柱等をつぶさに見て回った。終了後は、質疑応答と同社の若手社員による体験談などが披露された。工事は現在約五五%の進捗率で、工期は平成二十七年二月二十日までとなっている。

大阪府建設業懇話会は、大阪府住宅まちづくり部と大阪建設業協会、大阪府中小建設業協会、大阪電業協会、大阪府空気の調和衛生工業協会、大阪府建回連で構成され、府内の建設業振興に向け取り組みを実施しており、建築系高校生等を対象とした現場見学会を毎年実施している。